広島大学附属中・高等学校中等教育研究紀要
〈第64号　2017〉

高等学校外国語科における見方・考え方を働かせる指導の具体

久　松　功　周

本稿は，高等学校外国語科における，教科特有の見方・考え方（以下，見方・考え方）を働かせた指導について報告する。外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ（2016）や外国語科中学校学習指導要領（2017）などにおいて，見方・考え方という用語が用いられている。見方・考え方を働かせるということは，「外国語で表現し伝え合うため，外国語やその背景にある文化を，社会や世界，他者との関わりに着目して捉え，目的・場面・状況に応じて，情報や自分の考えなどを形成，整理，再構築すること」と定義されており，現在，教育において求められる「主体的・対話的で深い学び」における「深い学び」の鍵となるのが，この見方・考え方を生徒が働かせることであると指摘されている。この見方・考え方を働かせた指導は中学校のみならず高等学校でも求められることとなるが，この用語の理解が外国語科中等教育において十分に浸透しているとは言えない。そこで，この見方・考え方という用語を再定義し，その定義に基づいて行った実践およびその効果を示すことで，用語が表すものの理解，及び見方・考え方を働かせた実践の一助となること，ひいては「思考力・判断力・表現力の育成」を実現する一助となることを期待し，本稿にまとめた。

１．見方・考え方を働かせる問い

インターネットのＱ＆Ａサイトに中学２年生から次のような相談がありました。

私は，はっきり言って勉強が嫌いです。特に嫌いなのが英語と数学です。一生外国に行くつもりなんかないし，日本では日本語が使えれば生きていけるのに，なぜ使う必要もない外国の言葉を，こんなに一生懸命勉強するのかわかりません。数学もそうです。買い物をするのに方程式や図形はいりません。なぜｘやｙを長々と書きまくるのか，全然理解できません。他の科目もいっぱいおぼえさせられるので嫌いです。（でも体育や音楽は楽しいから好きです。）

この悩みをお父さんに言っても，ただ勉強しなさいと言うだけです。でも，正月におじさんに聞いたところ，お父さんも中学の時は全然勉強しなかったそうです。なぜ私は勉強しなければならないんでしょうか？

さて，あなたならこの相談者にどのようなアドバイスをしますか。70語程度の英語で相談者へのアドバイスを書きなさい。（2017　大阪大学入試問題より）

上の問いは2017年に大阪大学の入試問題で出題された問いである。現実のコミュニケーションを想定してこの問いに答えるには，見方・考え方を働かせる必要があると考える。以下，見方・考え方を再定義し，その定義にしたがってどのようにこの問いに解答すべきかを提示することを通じて，見方・考え方を働かせるということについての見解を示し，そしてどのようにその見方・考え方を育成することができるのかという実践例を提示したい。

２．外国語科における見方・考え方の再定義

外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ（2016）によると，外国語科における見方・考え方を働かせることとは，「外国語で表現し伝え合うため，外国語やその背景にある文化を，社会や世界，他者との関わりに着目して捉え，目的・場面・状況に応じて，情報や自分の考えなどを形成，整理，再構築すること」と定義されている。本稿にお

Narichika HISAMATSU：The Report of the Lesson in High School to Develop the Perspective for Better Expressions

いては，実践に応用する際の便宜上の観点から，「目的・場面・状況に応じて，情報や自分の考えなどを形成，整理，再構築すること」の部分に着目し，これを「表現をする目的を設定し，場面・状況・相手といったコミュニケーションにおける条件を勘案することで，その目的をよりよく達成できる表現内容や方法を判断すること」と再定義し実践を行った。

3．問いの考え方

前述の問いをどのように考えるべきなのだろうか。前項において行った再定義に従って考えたい。旺文社から出版された全国大学入試問題正解(2017)の解答例を見ると，以下のように書かれてある。

You say you don't like most school subjects, but that doesn't mean you don't need to study them. You need to study to cultivate your mind and train your brain. School education helps you become a capable person. Decide which subjects you are good at, not just what you like, and concentrate on them. Learning will guide you to be successful in your future career.

質問者の中学2年生の心構えを諌めるような内容に始まり，端的に勉強の意義を精神と知性の涵養，学校教育による能力の向上という2点の理由にまとめている。「なぜ勉強をしなければならないのか」という問いに対して，正確な英語を用いて指示文に対して答えていると考えれば入試問題に対する正しい「解答」であることは間違いない。しかし，これが大学入試問題ではなく実生活におけるアドバイスという場面になれば，このアドバイスが「正解」と言えるかどうかは分からない[1)]。なぜなら，現実の中学校2年生であれば解答例の中で勉強の意義として示されている，自らの精神や知性を高めることが出来ること，学校教育を通じて様々な資質を身につけることができることくらいは既に知っていると想定して差し支えないだろう。以上のような解答例の中で示されている理由は既に分かった上で，それでも勉強の意義を尋ねていると想定できるのである。実際に生徒という点で中学2年生と似た立場にいる生徒たちにこの解答例を示した際，否定的な反応をする生徒も多かったように思える[2)]。ではこのような実際のコミュニケーションの場面を想定した際に，どのようにアドバイスするべきなのか，前項で再定義した「表現をする目的を設定し，場面・状況・相手といったコミュニケーションにおける条件を勘案することで，その目的をよりよく達成できる表現内容や方法を判断すること」に従って考えたい。ここでは目的とコミュニケーションにおける条件のうち，相手に着目して内容と表現方法を考えた。

3.1．条件①　相手

ここでの情報の受け手は中学校2年生である。そのことを考えれば，勉強のよく出来る友人が「優等生」として扱われることは既に体験的に知っているだろうし，自らの資質を伸ばすことと勉強をすることに有意な関係があることは，知っていると想定できる。つまり情報の受け手である中学2年生は「勉強の重要性は頭では分かっているけれど，やる気がおきない」という状況下にいると想定することが可能だろう。

3.2．条件②　目的

この問いにおいては「なぜ勉強をしなければならないのか，という問いに対するアドバイス」が求められている。ここでの「アドバイス」というコミュニケーションの目的とは何だろうか。このアドバイスによって引き起こされる最も望ましい結果は，アドバイスを読んだ中学2年生が勉強に対するやる気を得て，実際に勉強をするという行動を取ることだろう。したがってなぜ勉強をしなければならないのかという問いに答えることを通じて，「勉強の重要性は頭では分かっているけれど，やる気が起きない」中学2年生が，「勉強に対するやる気を出して，実際に勉強をする」ようなアドバイスをすることがここでの目的となるだろう。ではどのような内容をどのような方法で伝えれば，この目的は達成できるのだろうか。

3.3．表現内容と方法

なぜ勉強をしなければならないのかという問いに答えることを通じて，「勉強の重要性は頭では分かっているけれど，やる気が起きない」中学2年生が，「勉強に対するやる気を出して，実際に勉強をする」ような表現内容や方法とはどのようなものだろうか。当然ながら唯一の絶対的な答えなど存在しない（だからこそ見方・考え方を働かさなければならないのである）。絶対的な答えはないにしても一般的な傾向として考えれば，中学2年生に対して観念的，抽象的なアドバイスをするよりもある学習方法や行動を勧めるといった具体性のある内容の方が伝わりやすいと考えることが出来るだろう。また「同じ疑問を自分も持ったことがある」などの共感を示すような内容や，不満を抱える相手を慰めるような内容を使うことで心情的に余裕が出来てやる気

なぜ （動機・必要性・目的）	The purpose of this commercial is _____ _____
誰に	〈　　〉is supposed to be the viewers of this commercial.
どのように （どんな印象を与えるか）	This commercial was created so that the viewers feel it（surprising / interesting / persuasive / encouraging / funny / innovative / creative / その他（　　）） ↑当てはまると感じたものに○
効果的だと思った点	

資料１（執筆者作成）

に有効であると判断したためである。その際，ワークシートに以下のような欄（**図２**）を設け記入させた。

指導手順(1)　CM を見せる
指導手順(2)　以下の欄に記入させる
指導手順(3)　考えたことをペアでシェア
指導手順(4)　教員の考えの提示

なお本実践において使用した CM のうち最も効果的であったのが大塚製薬のポカリスエットの CM である。この CM では飲料であるポカリスエットの味や効能については一切触れられないどころか，一瞬を除いて飲料の実物すら CM の中に登場しない。代わりに移っているのが大人数の高校生が音楽に合わせてダンスをする映像である。この CM を上の図にしたがって分析すれば，ポカリスエットについてより多くの人に知ってもらう為（目的）に高校生（誰に）を視聴者として想定し，視聴者がダンスの真似をして SNS に投稿したいと思うように（どのように）創られていると考えることができる。現在ダンスや振付が流行となって SNS を通じて拡散していくという状況を考えれば，SNS の使用に熟達していると考えられる年齢層である高校生をターゲットの視聴者として設定し，その高校生が SNS に投稿するように CM を作ることでポカリスエットという商品に関する情報の発信者を一般人の中に増やし，目的である「より多くの人に知ってもらう」ことを達成しようとする点で，「表現をする目的を設定し，場面・状況・相手といったコミュニケーションにおける条件を勘案することで，その目的をよりよく達成できる表現内容や方法を判断」している表現であると考えられる。（実際，本稿作成時点（2018.1.15）において Youtube にはいわゆる「踊ってみた動画」が多く投稿され，それを促すように大塚製薬が作成した「レッスンビデオ」が存在することからそのような意図をうかがい知ることが出来る）この CM を一つのモデルとして見方・考え方の獲得を促した。

4.2.4. 段階③　見方・考え方を働かせた表現

以上見方・考え方を有効な思考ツールとして獲得させたところで，実際に表現活動をタスクとして与え，コミュニケーションにおける条件を勘案しながらよりよい表現方法，内容を考えさせる。その際に用いたのが，上述した大阪大学の過去問題である。

4.2.5. 段階④　まとめ

以上までで見方・考え方を働かせて英作文を書かせたが，自らの用いた表現内容，表現方法が適切であるかを検証する段階が必要である。ある表現方法が効果的，すなわち伝わりやすいかどうかは自分が情報の受け手とならなければ分からない。そこでグループを作りクラスの生徒が書いた英作文を読んで，効果的だと思った表現に着目させた。またグループの中での優秀作品を選ばせた。このことでアドバイスの目的を達成する上で自分が効果的だと思う表現，自分も含めた他者が効果的だと思う表現を学ばせることができる。自分も含めた周りの友達が選んだ優秀作品を提示することで，生徒の動機付けを促したり，波及効果やよいモデルを示すといった「正のフィードバック」という評価の目的は達成できるので，この活動を評価に代えた。

指導手順(1)　４人１グループ（合計10グループ）に対して，生徒が書いた英作文４作品を配布し，a）やる気が出る英作文　b）説得力のある英作文　c）共感を感じる英作文の３つの観点に沿って，最も効果的だと判断した英作文を各観点１つずつグループで選ぶ

指導手順(2)　各グループから選ばれた作品を集め，a）やる気がでる英作文集，b）説得力を感じる英作文集，c）共感を感じる英作文集にまとめる。グループに a）

～c）のうち一つの英作文集を配布し，どのような表現がやる気，説得力，共感をもたらすのかを分析させる。

4.3. 指導結果の考察

指導結果を検証するために上述の大阪大学の問題を用いて英作文を，全く指導を行っていない状態で１回，見方・考え方を思考ツールとして指導したあとの段階③で１回，その後お互いの英作文を読み合った指導段階④を終えたところで１回の計３回書かせた。検証にあたっては，問いとなっている「なぜ勉強をしなければならないのか」に対する直接的な答え，言い換えれば「勉強の意義」としてどのような内容を書いているのか，そして，勉強の意義をより良く伝えるための内容，つまり「表現の工夫」としてどのような内容を書いているのかという二つの観点から検証を試みた。以下に１回目の英作文（プレテスト）と３回目の英作文（ポストテスト）の変容をまとめる。

4.3.1. 検証対象

検証の対象としたのは，広島大学附属高等学校Ⅱ年５組計40名（男子24名　女子16名）が書いた英作文であり，未回答の数は０である。

4.3.2. 勉強の意義として書かれた内容

勉強の意義として書かれた内容は，プレテスト，ポストテスト，ともに大きく分けて以下のような内容である

(a) 教養がつくなど，勉強自体の価値に関するもの
(b) 受験や学歴などの，キャリア形成に関するもの
(c) 忍耐力に関するもの
(d) その他（いつか分かる，など）
(e) 勉強の意義についての記述はなし

したがって，以上のa）～ e）の観点で書かれた生徒の作文の数の比較を行った。（70語という語数制限で書ける勉強の意義の要点としては１つなので，合計が生徒数の40になる）

表１：プレテストの結果

(a)教養	(b)受験	(c)忍耐	(d)その他	(e)なし
16	13	2	7	2

表２：ポストテストの結果

(a)教養	(b)受験	(c)忍耐	(d)その他	(e)なし
21	4	0	2	13

4.3.3. 表現の工夫として書かれた内容

表現の工夫として書かれた内容はプレテスト，ポストテストともに大きく分けて以下のような内容である。

（ア）共感を示す内容
（イ）自分の経験についての内容
（ウ）激励を示す内容
（エ）心構え，具体的行動を提案する内容

したがって40名の生徒の作文から，（ア）～（エ）に該当すると判断できる内容の数の比較を行った。（１枚の作文において，表現の工夫が書いてなかったり，複数の表現の工夫が書いてあったりするため，合計は生徒数である40にはならない）

表３：プレテストの結果

（ア）共感	（イ）経験	（ウ）激励	（エ）提案
12	0	3	4

表４：ポストテストの結果

（ア）共感	（イ）経験	（ウ）激励	（エ）提案
30	9	27	14

以上から，生徒１人あたりに見られる表現の工夫の数としては，0.475回から２回に増えており，英作文の質的変容が見られると考えられるだろう。

4.3.4. 考察

「勉強の意義についての内容」と「表現の工夫としての内容」における変容をまとめた。ここから言えることは，プレテストとポストテストで，生徒の書いた作文の質が「自分の考える勉強の意義を，一般論として正しいものとして伝えようとする」ものから，「相手の立場に立って，相手の情報の感じ方，受け取り方に配慮して伝えようとするもの」へと変容していったことがうかがえる。言い換えれば，「読み手意識」が色濃く表れていると言えるだろう。そのことは，表現の工夫が１人あたり0.475回から２回に増えていることから読み取ることができる上，能力が高まる，自らのキャリア形成に必要であるといった「勉強の意義」についての内容（勉強の意義の(e)の内容）が書かれていない作文が２作品から13作品へと増えていることからも読み取れる。もちろん，問いとなっている勉強の意義に対して明確な答えを書いていないということを肯定的なこととして判断するのには検討の余地が残るが，勉強の意義は中学校２年生にはある程度自明のものと生徒が「思考・判断」し，中学校２年生の発達段階や，心情面に配慮しようとする考えが働いた結果として捉えれば，前提とする生徒観である「表現者として見方・考え方に指導の余地がある」ことからの好ま

しい変容であると評価することもできるのではないだろうか。今後の指導の見通しとしては，表現の工夫としての内容に傾倒している生徒に対しては，問われている以上，勉強の意義についても書く必要があることを伝え，よりバランスの良い最適解としての英文を試行錯誤させることとなる。

5．おわりに

本稿で見方・考え方を働かせるということについての実践を通した見解を示した。冒頭の解答例に対して不正解と言わんばかりの反応を示した生徒だが，彼らがプレテストで書いた英作文を読んでみると資料３のように，ひょっとすれば冒頭の解答例よりも不満の出そうな内容を書いている。ここに「伝える側」と「受け取る側」の間の乖離を見て取ることができる。盛んに合意形成の重要性が強調される昨今であるが，異なった背景を持つ人と合意形成，相互理解を図ろうと思えば，伝える側は受け取る側の視点に，受け取る側は伝える側の視点に立ち，この乖離を埋めていこうとする態度が必要不可欠であることがこの実践を通じて示唆されていると考えている。そして今回の実践を通して，論理性のある英文だけが絶対的な正解なのではないということが冒頭の解答例に対して表された生徒の不満によって示唆されていることも重要であると考えている。私見ではあるが，昨今「なぜ論理的でなければならないのか」という議論，説明が十分になされないまま論理性の重要性が一人歩きしているように思えてならない。論理的に伝えることで誤解を生まないことはもちろん大切であるが，誤解を生まないような伝え方をすることだけがそのまま相手との相互理解を意味するわけではないことも，本実践において示唆されているように思う。結局「見方・考え方を身につける」とは，「相手の立場に立って考える」という基本的な態度と「相手に合わせた伝え方をする」という基本的な資質に集約されるのではないかと考えている。本稿の主題である「見方・考え方」含め，様々な用語が登場しては飛び交う英語教育界ではあるが，いつの時代も言われてきた「他者を想う」ことの重要性に回帰していくことが求められているように思えてならない。言語として表現される内容，方法は，**図１**のように人と関わる上での様々な条件を勘案する，つまり「他者を想う」ことで自然と形作られるものなのであろう。「他者への想いが紡ぐもの」。言葉というものに対する私なりの考え方である。

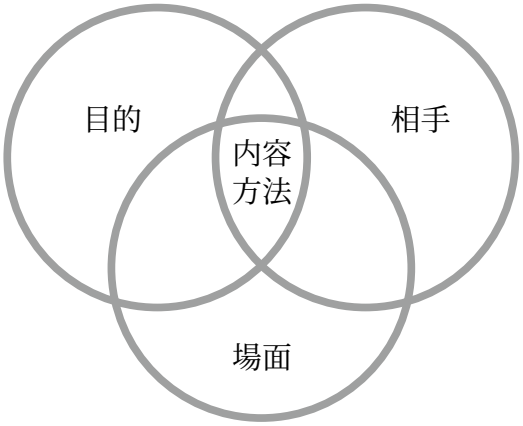

図１：コミュニケーションにおける条件と表現内容・方法の関係（執筆者作成）

※目的，相手，場面が重なる部分が最適な内容，方法となる

指導前（指導段階①以前のプレテスト）

English and math are very difficult subject, so I can understand you hate them. But I disagree you'll not need English and math. Nobody can say when you need English and math. If you didn't study them, you would get lost. But If you did, you could use these subject. Maybe your father regrets he didn't study so he my say to you so.（原文ママ）

↓

指導後（指導段階③）

Maybe almost all students think of study like you, of course I did. However, study is actually so fun that we can concentrate on it, forgetting ourselves. Probably you haven't noticed the joy of study yet. At first, try to sit in front of the desk and study 30 minutes everyday, as you are deceived. You'll want to study more before you know it. Good luck to you!（原文ママ）

資料２：指導前後を通じた生徒Ａの作品の変容

指導前（指導段階①以前のプレテスト）

I think you don't need to study if you don't want to do. This only means your life after your independence may not be a life which you hope however. If you can accept this, I think you don't have to study, but you want to have a life you hope, you had better study. Whether you study or not depends on you, because it's your right.（原文ママ）

↓

ポストテスト（指導段階④のあと）

I can understand your emotions. When I was 2nd grade at the junior high school, I didn't like studying, too. I think you should do various things and search what makes you interesting at first. You can realize fun of learning by studying what you are interested. I became to like studying by doing so, and I believe that you can do it, too. Good luck!（原文ママ）

資料３：指導前後を通じた生徒Ｂの作品の変容

[注]

(1) 本稿では，入試問題として出題された問題を「現実のコミュニケーションの場面だったら」という前提で扱っている。本稿で取り上げた解答例の「大学入試問題に対する解答」としての正しさに疑義を呈しているのではないこと，本稿における英作文を，大阪大学の設定した評価規準を満たす模範解答として掲載しているわけではないことに注意されたい。

(2) 最初の１文に対して「そんなことは分かっている」という反応をしていた。

(3) 修正を加えていないものが，資料２のポストテストである。

(4) 生徒会など人前で話す機会を多く持つ生徒は，そうでない生徒と比べて，一定の見方・考え方を身につけていたように思える。

[参考文献]

１）旺文社，『2018年受験用全国大学入試問題正解2 英語　国公立大編　研究と解答』，2017，pp.19

２）大阪大学入試問題，2017

３）中央教育審議会，『外国語ワーキンググループにおける審議のとりまとめ』，2016，pp. 3

４）文部科学省，『中学校学習指導要領解説外国語編』，2017，pp.10